



山根製錬所全景（1890年）「写真提供：別子銅山記念館」

えんとつ山

📍 愛媛県新居浜市角野新田町3丁目 [MAP 7F]



日本国内でも最古級の化学工業の遺産とされている、この旧山根製錬所煙突も国の有形文化財に登録されているんだよね。市民から「えんとつ山」の愛称で親しまれているけど、実は私、えんとつ山について詳しく知らないかも……。幸平さん詳しく教えて！

山根製錬所は、別子銅山で廃棄していた低品位の鉱石から硫酸などの化学薬品の製造と製鉄を目指して明治21年に完成したよ。だけど、当時の技術力では海外製品に対抗できず経営が悪化し、煙害問題も重なって、明治28年に閉鎖されたんだ。レンガ造りの煙突は約20mあって、雨風にさらされながらも130年余りの時を超えて、別子銅山を象徴するモニュメントの一つとして静かに新居浜の繁栄を見守っているよ。



別子銅山記念図書館は、別子銅山開坑300年を記念して住友グループから寄贈を受け、平成4年に開館したよ。特徴的なドーム型の屋根は、実は銅板でできているんだ！図書館には蔵書が約32万冊、開架スペースには約16万冊の本が配架されていて、児童図書コーナーではソファや机など自分の気に入った席で読書を楽しむことができるよ。広々として子ども連れにも人気の図書館なんだ！

そうなんだ！庭園の景色を眺めながら読書ができるみたいだしとっても素敵な場所ね。みんなも歴史の中に息づく持続可能な街、新居浜にぜひ来てみてね！

べっしどうざんきねんとしょかん 別子銅山記念図書館

📍 愛媛県新居浜市北新町10-1 [MAP 4C]



山根競技場での親友会陸上競技大会（1930年）
「写真提供：別子銅山記念館」

やまね

山根グラウンド

📍 愛媛県新居浜市角野新田町3-13 [MAP 7F]



山根公園のグラウンドや観覧席は、昭和2年に別子銅山の最高責任者となった鷲尾勘解治の指揮のもと、住友各企業社員の作務によって建設が行われ、昭和3年に完成した歴史的に貴重な産業遺産です。完成時の収容人数は約3万人でしたが、その後増設されて約6万人を収容できるようになりました。そんな山根グラウンドと、新居浜市の産業遺産のシンボルであるえんとつ山の魅力について紹介します。

山根グラウンドって昔は住友各企業合同の運動会などに利用されていたみたいね！今では山根公園の多目的グラウンドとしてスポーツやイベントはもちろん、毎年10月に行われる新居浜太鼓祭り、山根グラウンドに集結する太鼓台を見るために観客が座っている印象があるな～。

そうだね。ちなみに山根グラウンドにある観覧席は27段におよぶ石積み階段状となっていて全長約170mあるよ。実は、一つ一つの石を人の手で運んで造られているんだ！そんな観覧席を建設当時の姿で後世に継承していくために保存・活用を図っていて、平成21年には国の登録有形文化財になったんだよ。新居浜太鼓祭りのように人が多く座っていると、昔の住友の運動会を思い出させるね。